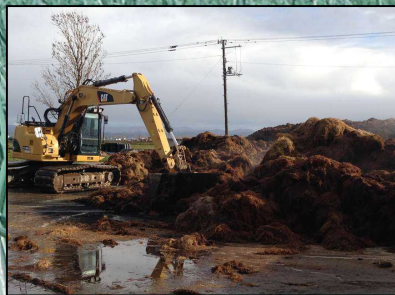


○支援体制の構築

必要な支援策を予算化 → 産廃処分費を支援費へ



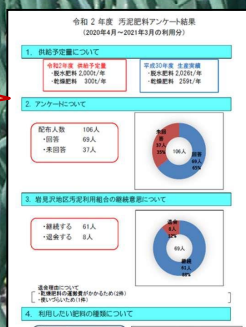
・共同堆肥盤の確保、管理



・肥料の運搬散布支援



・組合員アンケート



9

○下水汚泥肥料運用フロー(R7)

- ・国内肥料資源活用総合支援事業（農水省：R5年度補正）の活用により、個人所有の散布機械や堆肥盤が増強
- ・これにより、R7年度からは脱水肥料の運用量が900t増
- ・汚泥肥料の運用経費が1,400万円/年の減
- ・乾燥肥料の運用はR7年度をもって終了。
- ・なのでR8年度からは脱水汚泥のみの運用となる。

南光園処理場

脱水肥料 2,300t/年
→3,200t/年(運搬費200万円の増)
乾燥肥料 240t/年
→60t/年(生産経費1,600万円の減)
※乾燥肥料は処理場受渡し(約40軒)

①運搬支援

個人堆肥盤(4軒 → 8軒)
※堆肥盤及び散布機械を自己所有している組合員

約800 t/年
→1,700t/年
(160万円/年)

①運搬支援

約1,500 t/年
(300万円/年)

共同堆肥盤(約20軒)
(組合員所有の堆肥盤を下水道課が管理)

②共同堆肥盤
管理支援

③運搬・散布支援

約1,500t/年
(1,430万円/年)

組合員圃場

- ①運搬支援 ... 南光園処理場から個人及び共同堆肥盤までの運搬支援
- ②共同堆肥盤 ... 共同堆肥盤での切り替えし作業や搬入路の除雪作業などの支援
- ③運搬・散布支援 ... 共同堆肥盤からの運搬及び圃場への散布支援

10



肥料の国産化・安定供給確保対策のうち 国内肥料資源利用拡大対策事業

【令和5年度補正予算額 5,600百万円】

<対策のポイント>

肥料の国産化に向けて、畜産由来の堆肥や下水汚泥資源などの国内資源の肥料利用を推進するため、**肥料の原料供給事業者、肥料製造事業者、肥料利用者の連携づくりや施設整備等を支援**します。

<事業目標>

肥料の使用量（リンベース）に占める国内資源の利用割合を拡大（40%〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

1. 施設整備等への支援

堆肥等の高品質化・ペレット化など、広域流通等に必要な施設整備等への支援を行います。

2. 国内資源の肥料利用拡大の取組への支援等

ほ場での効果実証の取組や機械導入、関係事業者間のマッチングや現地指導等への支援などを行います。

3. 国内資源の肥料利用拡大に向けた調査

国内資源の肥料利用の効率化に必要な全国の土壌養分等の状況や家畜排せつ物の管理方法の実態等を調査します。

<事業イメージ>

原料供給事業者、肥料製造事業者、肥料利用者
との間で連携計画を作成した者へ支援



<事業の流れ>



【お問い合わせ先】

(1, 2の事業)	農産局	技術普及課	(03-6744-2182)
(2, 3の事業)		農業環境対策課	(03-3593-6495)
(1, 2, 3の事業)	畜産局	畜産振興課	(03-6744-7189)

データ①

下水汚泥肥料(脱水肥料)を施用した圃場と岩見沢市全体の収量(kg/10a)を比較

	令和元年度				令和2年度				令和3年度				令和4年度			
	① Mさん 収量 (10a当たり)	② 岩見沢 平均収量 (10a当たり)	①-② 岩見沢平均 との差 (kg)	①/② 岩見沢平均 との比較 (%)	① Mさん 収量 (10a当たり)	② 岩見沢 平均収量 (10a当たり)	①-② 岩見沢平均 との差 (kg)	①/② 岩見沢平均 との比較 (%)	① Mさん 収量 (10a当たり)	② 岩見沢 平均収量 (10a当たり)	①-② 岩見沢平均 との差 (kg)	①/② 岩見沢平均 との比較 (%)	① Mさん 収量 (10a当たり)	② 岩見沢 平均収量 (10a当たり)	①-② 岩見沢平均 との差 (kg)	①/② 岩見沢平均 との比較 (%)
春小麦	486kg	343kg	143kg	142%	522kg	383kg	139kg	136%	462kg	407kg	55kg	114%	462kg	316kg	146kg	146%
秋小麦	556kg	504kg	52kg	110%	558kg	499kg	59kg	112%	720kg	524kg	196kg	137%	588kg	467kg	121kg	121%
ビート	7200kg	7499kg	-299kg	96%	8030kg	7580kg	450kg	106%	7900kg	7140kg	760kg	111%	7591kg	7450kg	141kg	102%
大豆	342kg	268kg	74kg	128%	270kg	262kg	8kg	103%	300kg	288kg	12kg	104%	300kg	272kg	28kg	110%

	令和5年度				令和6年度			
	① Mさん 収量 (10a当たり)	② 岩見沢 平均収量 (10a当たり)	①-② 岩見沢平均 との差 (kg)	①/② 岩見沢平均 との比較 (%)	① Mさん 収量 (10a当たり)	② 岩見沢 平均収量 (10a当たり)	①-② 岩見沢平均 との差 (kg)	①/② 岩見沢平均 との比較 (%)
春小麦	R5作付無し	375kg	-	-	R6作付無し	484kg	-	-
秋小麦	552kg	481kg	71kg	115%	691kg	552kg	139kg	125%
ビート	7000kg	7070kg	-70kg	99%	7294kg	8230kg	-936kg	89%
大豆	180kg	262kg	-82kg	69%	286kg	311kg	-25kg	92%

データ②

下水汚泥肥料(脱水肥料)のみを施用した圃場と鶏糞堆肥のみを施用した圃場でそれぞれの収量(kg/10a)を比較【R6は汚泥肥料施用と鶏糞未施用の比較】

施用作物	令和4年度				施用作物	令和5年度			
	① 汚泥肥料収量 (10a当たり)	② 鶏糞堆肥収量 (10a当たり)	①－② 鶏糞堆肥との差 (kg)	①／② 鶏糞堆肥との比較 (%)		① 汚泥肥料収量 (10a当たり)	② 鶏糞堆肥収量 (10a当たり)	①－② 鶏糞堆肥との差 (kg)	①／② 鶏糞堆肥との比較 (%)
大豆 (タマビリカ(晩生))	302.8kg	282.4kg	20.4kg	107%	小麦 (ゆめちから(開作秋播き))	649.7kg	640.4kg	3.3kg	101%

施用作物	令和6年度							
	① 収量 (10a当たり)		② 岩見沢平均 収量 (10a当たり)		①－② 岩見沢平均との差 (kg)		①／② 岩見沢平均との比較 (%)	
	R6汚泥肥料 施用圃場	未施用圃場	R6汚泥肥料 施用圃場	未施用圃場	R6汚泥肥料 施用圃場	未施用圃場	R6汚泥肥料 施用圃場	未施用圃場
大豆 (すずまる)	381.4kg	381.8kg	311.0kg		70.4kg	70.8kg	123%	123%



■左の写真のように隣接する圃場にて比較を実施している。

■令和7年度は小麦、コーンにて比較予定。

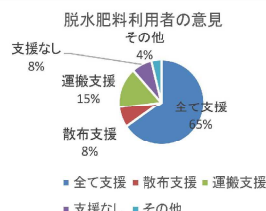


- 左の写真のように隣接する圃場にて比較を実施している。
- 令和7年度は小麦、コーンにて比較予定。

・経費削減に向けた組合員アンケート

Q.脱水肥料の利用にあたり、市で行う支援について意見をお聞かせ願います。

回答内容	件数
「運搬」「散布」支援が無いと使わない。	17
「散布」支援が無いと使わない。(運搬は自己負担)	2
「運搬」支援が無いと使わない。(散布は自己負担)	4
支援が無くても使う。(散布・運搬は自己負担)	1
その他	2
合計	26



結果
運搬・散布支援が無ければ使わないという方が約7割、運搬支援が無ければ使わないという方が約1割、支援が無くても使う方は約1割という結果となり、現在の支援内容の水準を下げた場合には半数以上の方が使用を取りやめるような結果となった。

また、この結果は前回のアンケートとほぼ同様な結果となった。
(前回(R6)全て支援:55%、散布支援:4%、運搬支援:30%、支援なし:7%、その他:4%)

- ・下水汚泥肥料の持続可能な活用に向けて、現在実施している支援費の縮小に関するアンケートを実施
- ・市からの支援がなければ、8割以上の組合員が下水汚泥肥料の利用に難色

・論文による事業評価



- ・地域外の事業(脱水肥料の産廃処分)を地域内の事業(脱水肥料の運搬散布等支援費)として実施することで、地域経済への波及効果をもたらしめていることを論証
- ・下水汚泥肥料の取り組みが地域活性化を担っている

・臭気対策



- ・堆肥化の際に堆肥発酵資材(キトサン)を散布し、臭気及び病原菌の発生を抑制

・汚泥処理施設の広域化



- ・汚泥処理施設の改築更新に合わせて、汚泥処理の広域化事業を実施【事業期間: R3~R12】
- ・処理コストの削減、下水道資源の有効活用

・地域資源(廃棄米)の活用



- ・地元の精米工場から発生した廃棄米を脱水汚泥の堆肥化の副資材として活用
- ・地元企業と汚泥利用組合で廃棄米の無償譲渡契約を締結

ご清聴ありがとうございました

